

東日本大震災からの復興に向けた 東北地方の現状と今後の課題

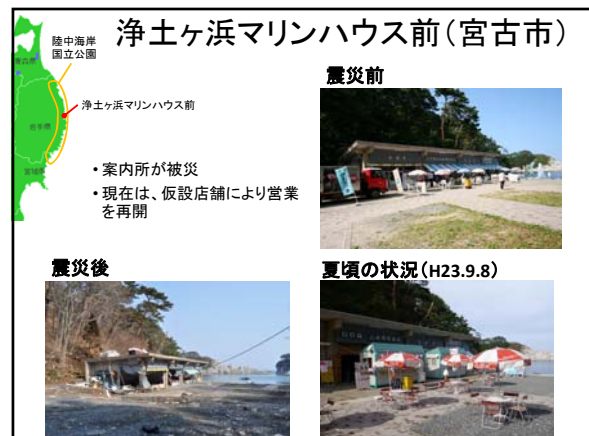
平成23年10月24日(月)
第4回 人と自然との共生懇談会
環境省東北地方環境事務所長
鳥居 敏男

震災による陸中海岸国立公園の被害状況

- 公園事業全121事業の被害状況は、全壊17%、半壊11%、一部被害22%、被害なし44%(9月2日現在)
- 施設のうち、高台にある施設は比較的被害が軽微だが、野営場、トイレ、園地、道路(歩道・車道)などで、直接津波の影響を受けた施設の多くが全壊

浄土ヶ浜集団施設地区の場合

全壊	3事業	園地×2、歩道
半壊	5事業	休憩所、舟遊場×2、車道×2
一部被害	0事業	
被害なし	5事業	駐車場、博物館展示施設×2、宿舎、休憩所



陸中海岸 国立公園

中の浜キャンプ場(宮古市)

中の浜キャンプ場

震災前



震災後



夏頃の状況(H23.9.9)



陸中海岸 国立公園

あねよし

姉吉キャンプ場(宮古市)

姉吉キャンプ場

震災前



震災後



夏頃の状況(H23.8.5)



陸中海岸 国立公園

あらがみ

荒神海水浴場(山田町)

荒神海水浴場

- ・災害廃棄物が漂着。
- ・現在は撤去済み

震災前



震災後



夏頃の状況(H23.6.7)



陸中海岸 国立公園

高田松原(陸前高田市)

高田松原

震災前



震災後



夏頃の状況(H23.7.26)



陸中海岸 国立公園

ごいしかいがん ごいしはま

碁石海岸・碁石浜(大船渡市)

碁石海岸

- ・碁石海岸の浜が狭くなったが、碁石状の礫は残存
- ・震災後は防潮堤が倒壊し散乱していたが、現在は撤去済み

震災前



震災後



夏頃の状況(H23.9.2)



陸中海岸 国立公園

くぐなりはま

気仙沼大島 十八鳴浜(気仙沼市)

気仙沼大島 十八鳴浜

震災前

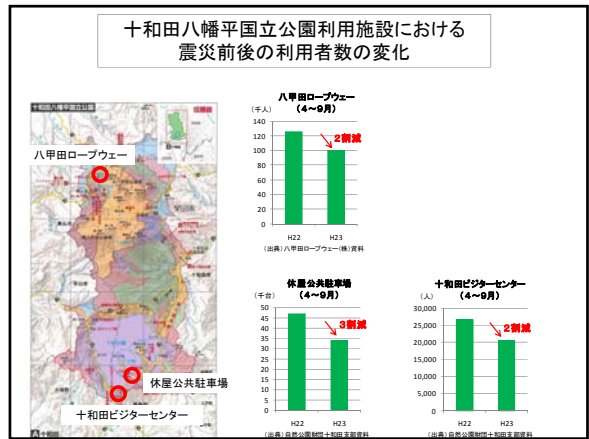
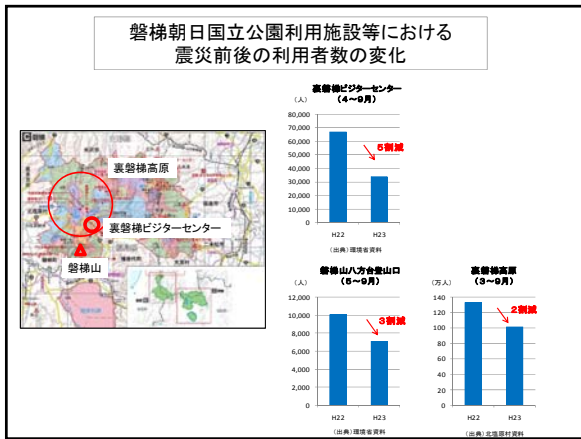
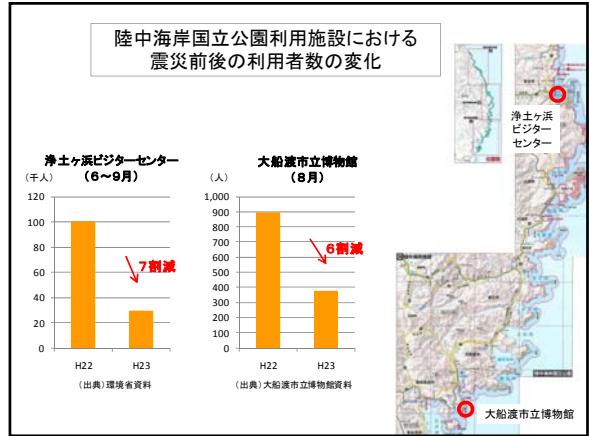
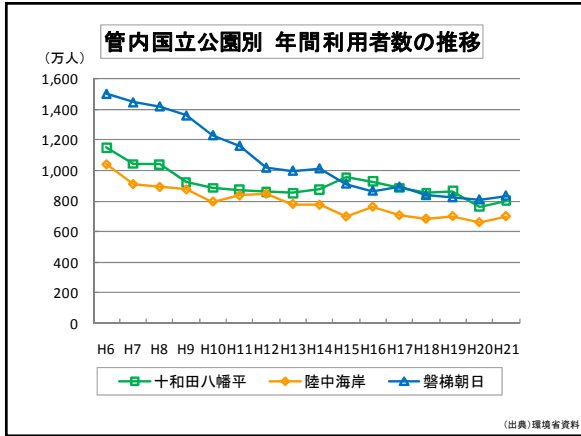


震災後



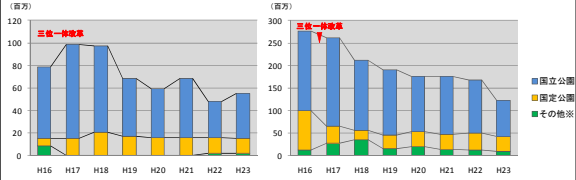
夏頃の状況(H23.9.7)



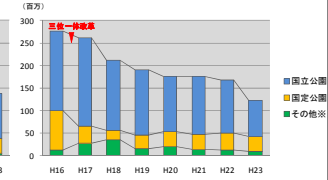


自然公園等整備に係る関係県予算の推移

《青森県》



《岩手県》

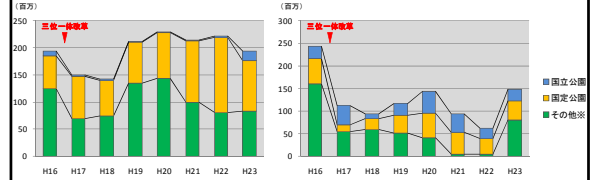


※「その他」には、都道府県立自然公園、長距離自然歩道、自然再生事業が含まれる。

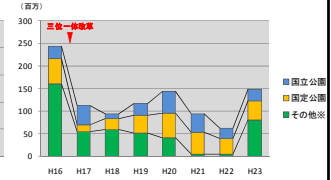
都道府県提出資料を基に作成

自然公園等整備に係る関係県予算の推移

《宮城県》



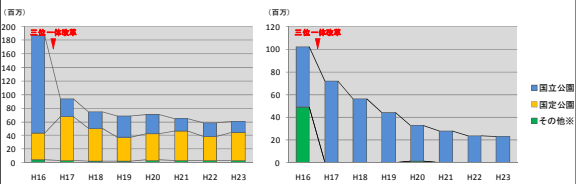
《秋田県》



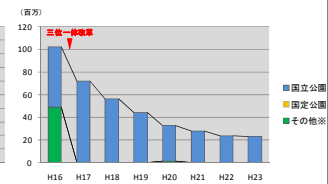
都道府県提出資料を基に作成

自然公園等整備に係る関係県予算の推移

《山形県》



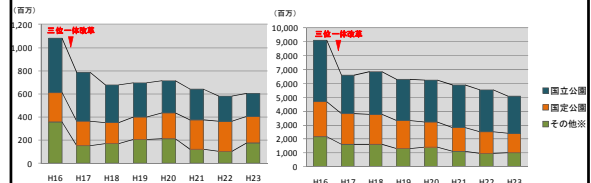
《福島県》



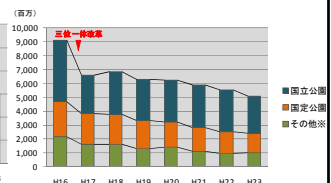
都道府県提出資料を基に作成

自然公園等整備に係る予算の推移

《東北6県》



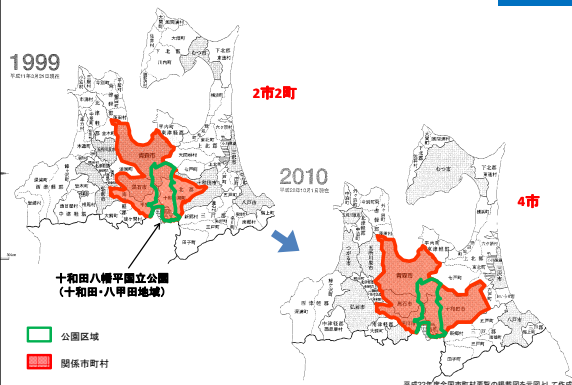
《全国》



都道府県提出資料を基に作成

国立公園関係市町村の推移

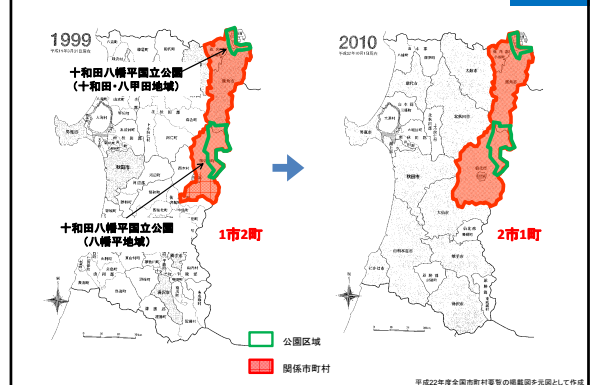
青森県



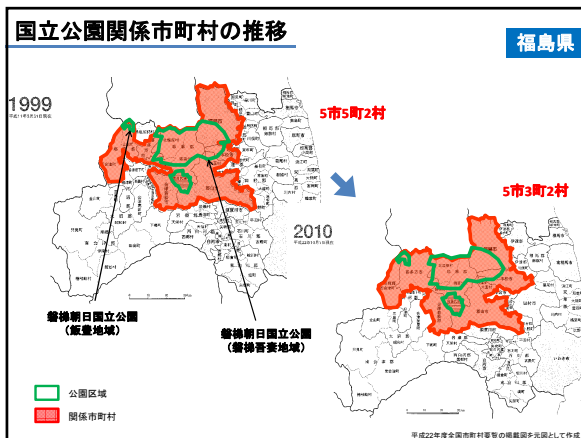
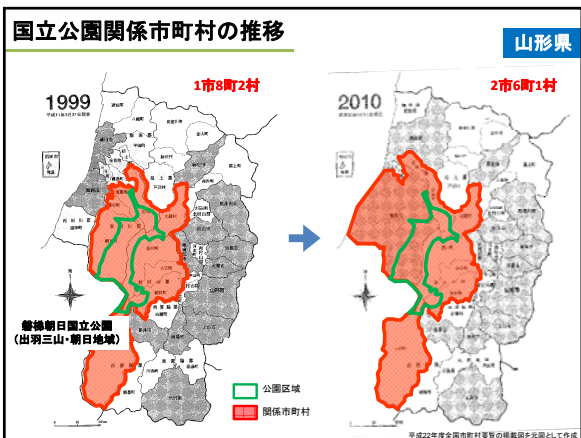
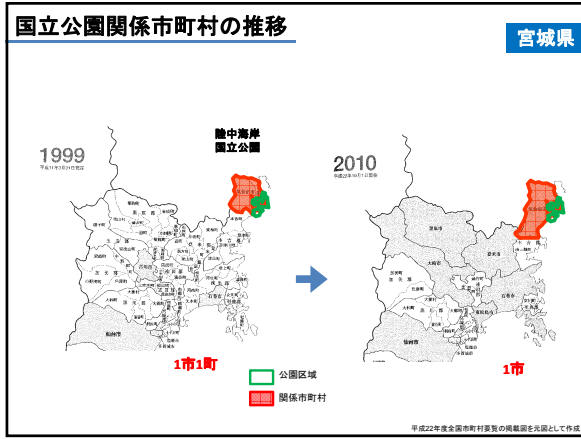
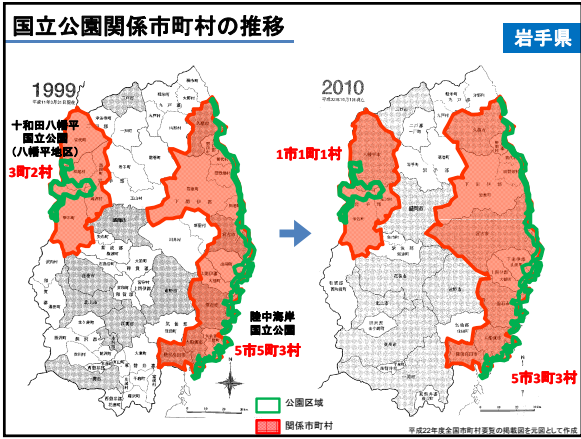
平成22年度全国市町村番号の掲載図を基に作成

国立公園関係市町村の推移

秋田県



平成22年度全国市町村番号の掲載図を基に作成



新「三陸復興国立公園(仮称)」を軸にした地域の復興

【背景】

- 三陸海岸の自然環境
 - 傑出した自然景観、海洋史、特徴的な地質
 - 家畜等の野生動物の重要な生息地
 - 東北地方太平洋沿岸には多くの自然公園が指定
 - 多くの観光客が訪れる(国立・国定:約900万人(H19))
 - 津波被害のおそやすい地形
- 過去繰り返されてきた津波災害
- 国内有数の水産業
 - 世界三大漁港
 - 地域の基幹産業である水産業

復興に向けた具体的取組

- 水産復興に役立つ里地・里海型の新「三陸復興国立公園(仮称)」への再編成
- 長距離歩道と復興のシンボルとなる森づくり
- 被災を記録・継承するための学びの場とモニタリング

【新たな公園づくりのポイント】
【従来のテーマ】:三陸海岸の地形・地質、海洋史、野生生物
【新規のテーマ】

- 生物多様性と森・里・海のつながり
- 農林漁業との連携と地域との協働
- 防災との連携と津波経験の継承
- 世界ジオパーク
- 観光振興、エコツーリズム、地元雇用

水産業・防災と連携した自然公園等による復興への貢献

【参考:これまでの取り組み】

- 陸中海岸国立公園の拡張と名称変更
 - 国立・国定公園総合検査事業(H22.10月、環境省公告)
 - 地元からも要望あり
 - H24年度中の指定を目指していた
- いわて三陸ジオパーク
 - 岩手県が推進協議会をH23.2月設置
 - H24に日本、H27に世界ジオパーク登録を目指していた
- 産業と連携したエコツアー
 - 田野畑村を中心に推進されてきた
- 長距離歩道の整備
 - 岩手県がH22より整備に向けて検討

生物多様性と森・里・海のつながり

～「森は海の恋人」活動をモデルとして～

<森と海のつながり = 森は海の恋人>

- 森づくりにより、豊かな森を形成
- 河川・里を通じて、栄養分が海に流れる
- 栄養分をもとにプランクトン、藻場が生育
- 魚類が増殖し、豊かな海を形成

豊かな森づくり

- 植樹活動
- 人工林の適切な管理
- 里山の維持管理

生物多様性が豊かな森

魚・海藻などが豊かな海

- 生物多様性が豊かな海

山から川への栄養塩類等の供給
川から海への栄養塩類等の供給
魚類の遡上
プランクトンの増殖
藻場(海藻・海草)の生育
海草・海藻の生育
流域の住民の森づくりへの参加
他地域の住民の森づくりへの参加

海岸長距離歩道

南北をつなぐ自然歩道を整備

- 沿岸の自然と生活・産業・文化をつなぐ
- 災害時には、住民や観光客の防災避難路として活用
- 津波の経験を語り継ぐ被災の記録・学びの場

歩道施設例

利用者の避難場所ともなる展望の丘づくり

「展望の丘」の整備

- 展望台、自然とのふれあいや津波経験を学ぶ場として丘を公園施設として整備
- 住民・観光客の緊急避難場所となる
- 海辺の森林・自然を住民参加で再生
- 復興のシンボルとなる

被災した国立公園の利用施設 → 復旧(移設・土地造成も含む)

- 災害廃棄物を分別し安全なリサイクル材料として活用

避難路と避難広場の機能を持つ公園利用施設を整備

- 住民参加による森の再生
 - その地域の広葉樹等による郷土種の森を再生
- 公園利用施設の復旧の際、避難路と避難広場が不可欠
- 分別した安全なリサイクル材料を活用して丘を造成
- 避難路を長距離歩道に接続

被災を記録・継承するための学びの場とモニタリング

～大災害の経験を確実に記録し、次の世代に引き継ぐために～

被災の記録

- 自然環境(植生、地形(干潟・砂浜)、藻場、動物の分布など)の変化状況の記録とモニタリング
- 津波石、被災に耐えた象徴的な自然物(松、杉)など
- 被災者の体験・知恵を伝える「生の声」
- 地震・津波の映像

アーカイブとして整理し、多くの人が活用可能な状態に

- 現場で伝える経験者から伝える → 復旧に継承
- 現場で伝える経験者から伝える → 復旧に継承
- これまでも自然環境保全基礎調査などで、自然環境を継続して把握

継承するための学びの場

- 【学びの場づくり】
 - 自然公園・歩道の看板
 - 被害地域を見学する展望台
 - ビジターセンター・展示 など
- 【学ぶための体制づくり】
 - エコツーリズムのガイド育成
 - ガイドプログラムの開発
 - 学校等での防災教育

多くの人に、現場で理解していただき、国民全体で次に備える

- 地域の復興計画・防災計画への活用
- 地域振興(エコツーリズム、地元雇用の創出)
- 学術研究などの基礎資料として活用

今後の課題

地域における国立公園の存在意義をどう高めるか。

- 国立公園は地域の生物多様性を維持していく上での屋台骨
- 多様な関係者を巻き込んだ「場面」の展開
 - いろんな役者が「国立公園」という舞台の上で個性を発揮
 - 様々な「場面」を創りあげ、様々な手段により社会へ発信

* 震災による人々の意識の変化を踏まえ、特に三陸復興国立公園(仮称)は、地域における人と自然、人と人との絆を強化していくことに資するものとする必要。

- 復興への取組のうち、自然との関わりを有するものについて情報を広く提供し、様々な形での参加を促す
- 国立公園内にそのような「場」を用意し、三陸ならではの利用形態を創出することで地域も活性化